

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第42週の発生動向

全数報告の感染症 (42 週までに新たに届出のあったもの)

1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 5 例。3 類感染症：報告なし。4 類感染症：報告なし。
5 類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	40 歳代	男	無症状病原体保有者	—
			70 歳代	男	肺結核	痰、呼吸困難
		延岡	60 歳代	男	喉頭結核	咳、痰、嘔声
		日南	70 歳代	女	肺結核	咳、痰
		高鍋	70 歳代	女	疑似症患者	咳、痰、血痰
5類	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	宮崎市	60 歳代	男	患者	胆嚢炎 菌種名(<i>Enterobacter cloacae</i>)
	後天性免疫不全症候群	宮崎市	20 歳代	男	AIDS	HIV脳症(痴呆又は亜急性脳炎)

定点把握の対象となる 5 類感染症

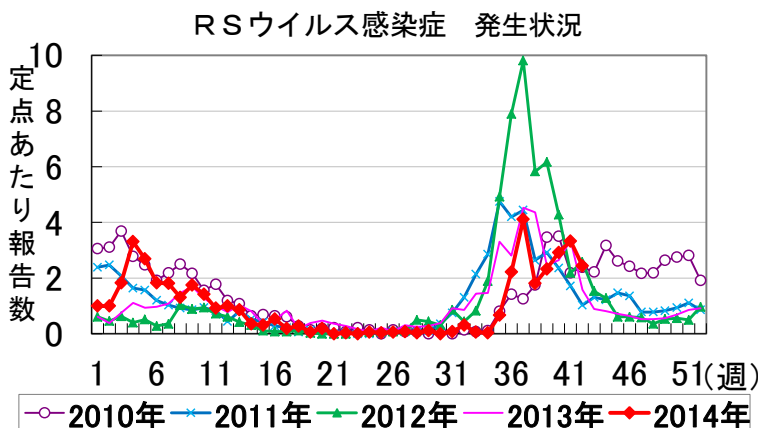
・定点医療機関からの報告総数は 475 人 (定点あたり 14.2) で、前週比 91%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患は咽頭結膜熱と水痘で、減少した主な疾患はRSウイルス感染症とヘルパンギーナであった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

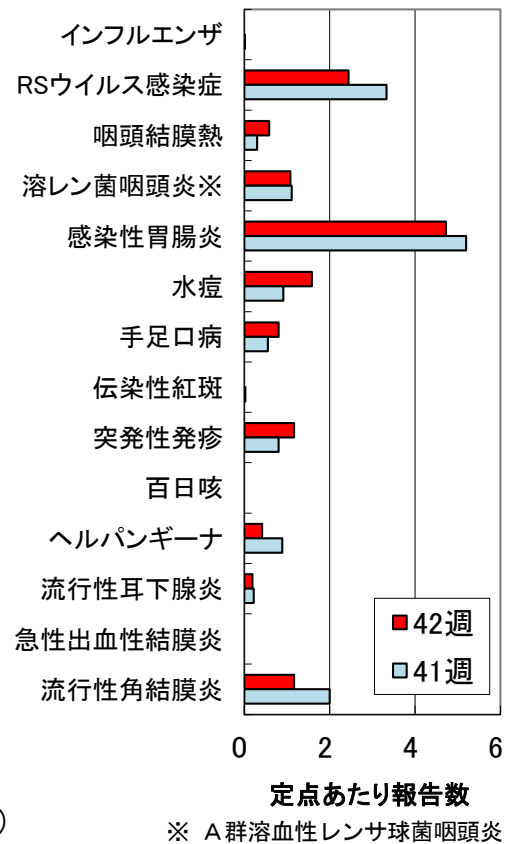
【RSウイルス感染症】

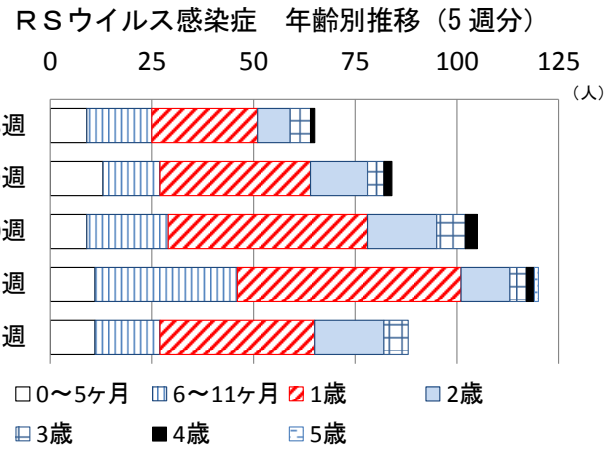
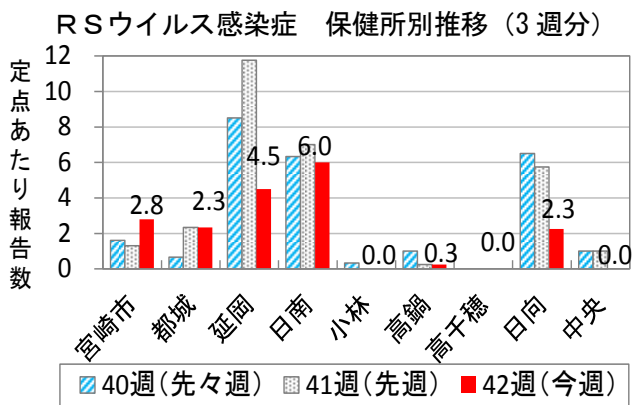
・報告数は 88 人 (2.4) で、前週比 73%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値* (1.8) の約 1.4 倍であった。年齢別では1歳が全体の約 4 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値



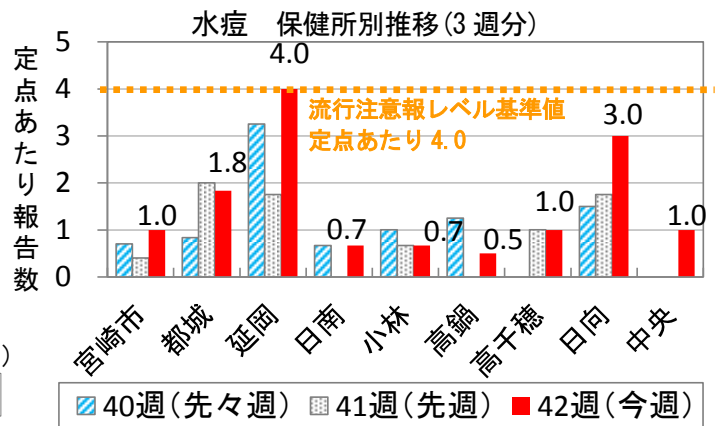
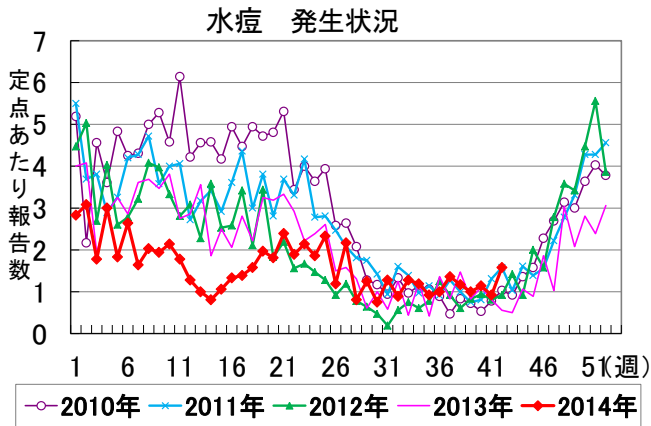
《前週との比較》





【水痘】

・報告数は57人(1.6)で、前週比173%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(0.93)と同程度であった。延岡(4.0)保健所からの報告が多く、年齢別では1歳が全体の約4割を占めた。



★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	水痘(4.0)
日南	なし
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	咽頭結膜熱(6.0)

流行警報レベル開始基準値

・咽頭結膜熱(3.0)

流行注意報レベル基準値

・水痘(4.0)

□ 病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成 26 年 10 月 20 日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同日
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4	女	2014.9.22	無呼吸	咽頭ぬぐい液	2014.10.8
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4	男	2014.9.21	百日咳疑、下気道炎、気管支炎	鼻汁	2014.10.6
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	40歳代	男	2014.9.26	百日咳疑	咽頭ぬぐい液	2014.10.8
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4	女	2014.10.1	百日咳疑、発熱(38.5℃)、下気道炎、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2014.10.8
<i>Salmonella Choleraesuis</i> (O7:c:1,5)	60歳代	男	2014.10.2	サルモネラ敗血症、発熱(40.0℃)、関節痛、下痢	血液(株)	2014.10.14
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4	女	—	百日咳疑、鼻汁、咳、上気道炎	鼻汁	2014.10.14
<i>Legionella pneumophila</i> SG1	50歳代	男	2014.10.7	重症肺炎(レジオネラ症)、発熱(39.3℃)	喀痰	2014.10.14
EHEC(O157:H7 VT1,2)	5~9	女	2014.10.4	胃腸炎、下痢、血便、腹痛	便	2014.10.10
EHEC(O157:H7 VT2)	60歳代	男	2014.10.10	無症状	便	2014.10.15
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4	女	2014.10.14	百日咳疑	咽頭ぬぐい液	2014.10.20

○百日咳疑いで検査を行った6人が百日咳と同定され、患者は1人を除き0~4歳の乳幼児であった。百日咳は母親からの受動免疫がないため、乳幼児は感染のリスクが高く、特に1歳以下の乳児では重症化しやすいことが知られている。青年期や成人の保菌者が乳児への感染源となりやすいため、抗菌薬の効果が少ないとされる瘵咳期でも感染拡散防止のために抗菌薬投与が勧められる。

○9月に続き、レジオネラ症疑いの50代男性から *Legionella pneumophila* SG1 が分離された。レジオネラ症は予後良好なポンティアック型と重症例の多い肺炎型(レジオネラ肺炎)に分類される。肺炎型は進行が早いのが特徴で、初期は全身倦怠感、頭痛などで始まり、数日以内に39℃以上の高熱、乾性ときに湿性咳、胸痛、呼吸困難といった呼吸器症状が現れ、しばしば48時間以内に重症化する。レジオネラは細胞内寄生菌であるため、抗菌薬を選択する場合は細胞内移行性の高いニューキノロン系やマクロライド系を選択する必要がある、重症肺炎の治療ではしばしばβ-ラクタム系と併用される。

★ウイルス

報告なし

📊 全国第41週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第41週）

1類感染症	報告なし				
2類感染症	結核	359例			
3類感染症	細菌性赤痢	7例	腸管出血性大腸菌感染症	71例	腸チフス 1例
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	5例	つつが虫病 1例
	デング熱	5例	日本紅斑熱	9例	マラリア 1例
	レジオネラ症	11例	レプトスピラ症	1例	
5類感染症	アメーバ赤痢	10例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症 8例
	急性脳炎	3例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3例
	後天性免疫不全症候群	12例	ジアルジア症	2例	侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例
	侵襲性肺炎球菌感染症	11例	水痘(入院例)	7例	梅毒 18例
	播種性クリプトコックス症	1例	破傷風	3例	風しん 1例
	麻しん	1例	薬剤耐性アシネトバクター感染症	2例	

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関あたりの患者報告総数は前週比100%と横ばいであった。今週大きく増加した疾患は水痘と手足口病であった。減少した主な疾患はヘルパンギーナであった。

RSウイルス感染症の報告数は2,946人(0.94)で、前週比102%とほぼ横ばいであった。熊本県(3.9)、宮崎県(3.3)、徳島県(3.0)からの報告が多く、年齢別では6ヶ月~1歳が全体の約6割を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2014年 第42週(10月13日～10月19日)

疾病名		第41週	第42週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1										
	定点あたり	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	120	88	28	14	18	18		1		9	
	定点あたり	3.33	2.44	2.80	2.33	4.50	6.00	0.00	0.25	0.00	2.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	11	21		3	5	4			2	1	6
	定点あたり	0.31	0.58	0.00	0.50	1.25	1.33	0.00	0.00	2.00	0.25	6.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	40	39	7	3	10	2	2	6	1	8	
	定点あたり	1.11	1.08	0.70	0.50	2.50	0.67	0.67	1.50	1.00	2.00	0.00
感染性胃腸炎	報告数	187	170	42	36	5	16	29	8	4	23	7
	定点あたり	5.19	4.72	4.20	6.00	1.25	5.33	9.67	2.00	4.00	5.75	7.00
水痘	報告数	33	57	10	11	16	2	2	2	1	12	1
	定点あたり	0.92	1.58	1.00	1.83	4.00	0.67	0.67	0.50	1.00	3.00	1.00
手足口病	報告数	20	29	2	12	1	6	6	1	1		
	定点あたり	0.56	0.81	0.20	2.00	0.25	2.00	2.00	0.25	1.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	29	42	11	8	4	4	6	2		6	1
	定点あたり	0.81	1.17	1.10	1.33	1.00	1.33	2.00	0.50	0.00	1.50	1.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	32	15	4	2	2	3		3		1	
	定点あたり	0.89	0.42	0.40	0.33	0.50	1.00	0.00	0.75	0.00	0.25	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	8	7	5							2	
	定点あたり	0.22	0.19	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	12	7	5	2							
	定点あたり	2.00	1.17	1.67	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

*先週の報告数は修正されています。

●全数把握対象疾患累積報告数(2014年第1週～42週)

2類感染症	結核	188例(5)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	25例				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	15例	重症熱性血小板減少症候群	11例
	つつが虫病	6例	日本紅斑熱	5例	ボツリヌス症	1例
	レジオネラ症	12例				
5類感染症	アเมอร์バ赤痢	4例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム腸内細菌感染症	2例(1)
	急性脳炎	5例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	10例(1)	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	10例
	梅毒	10例	破傷風	1例	風しん	3例
	麻しん	4例				

()内は今週届出分、再掲